

## 人権擁護の活動に携わって

理事 高橋 正光



人権に携わる仕事を仰せつかって、早いもので20年が過ぎようとしています。毎年12月10日が世界人権デー、そして、6月1日が人権擁護委員の日。委員は市区町村長の推薦で、法務大臣の委嘱により、現在全国で約14,000名が活動しております。

委員の活動と役割は主として人権悩み事相談と人権啓発活動です。相談については、いじめや体罰、暴行や虐待、差別、名誉棄損、プライバシーの侵害、セクシュアルハラスメント、そして最近ではインターネット上の誹謗中傷と人権に関する様々な相談が対象です。

また、人権啓発活動では、小学生を対象に「人権の花運動」や「子どもからの人権メッセージ発表会」を開催し、中学生には「中学生人権作文コンテスト」を実施しています。その他にも、幼児や小・中学生を対象に「子どもの人権110番」「人権教室」及び「SOSミニレター」などの活動があります。ちなみに、昨年度開催した「子どもからの人権メッセージ発表会（17市町村の小学生を対象）」は私たちの立川市が主催ということで、立川市内の小学校20校中10校から各1名ずつ、16市町村の小学校からは各市1名の総勢26名の子どもたちが小学生として日頃から人権について思っていること、考えていること、そして、感じていることを素直に率直に文章にし、メッセージとして力強く生き生きと発表して頂きました。その内容は、いじめ問題や子どもへの虐待、障害者差別など多義にわたり、何れも全ての人が生まれながらにして持つ権利である基本的人権の尊重、及び人間の尊厳を旨とした素晴らしいメッセージであり、聞き手の私たちの心に強く響くものがありました。子どもたちの届けた清らかな心から醸し出る人権メッセージは、我々大人たちにも改めて人権の大切さを認識させて頂いた次第です。広い会場で多くの来場者の前で堂々と立派に発表した経験、体験はこれからのお子様たちの長い人生を生きていく上で大きな自信となり、糧となっていくことでしょう。また、司会進行役も子どもたちが行い、アトラクションでも40名の子どもたちの合唱団による爽やかな清らかな心にしみる歌声は一服の清涼感を味わうことが出来ました。正に、子どもが主役の子どもたちによる人権メッセージ発表会は、私たち大人に多くのテーマと感動を与えてくれました。このように子どもたちによる素晴らしい人権メッセージの発表を聞き、心を熱くしたのを昨日のことのように覚えています。

しかしながら一方では、いじめによる子どもの自殺や親による子への虐待があとを絶ちません。増加の一途であり、誠に嘆かわしい限りであります。このような不幸な出来事を何としても根絶していくなければなりません。我々大人の責任であります。

今や、ものが溢れ、お金さえ出せば欲しいものはすべて手に入る物欲飽食の時代から、優しさで人を思いやる心の時代へといち早く大転換を図り、この21世紀を人権の世紀としたいものです。そのためにも、子ども時代から人権の大切さ、そして、命の尊さを教え、優しさや思いやり、そして生きる力をはぐくむ保育・教育が必要不可欠かと思います。

2月に韓国の平昌で冬季オリンピック・パラリンピック大会が開催され、日本選手の活躍もあって大変盛り上がった大会となりました。そして、いよいよ2年後の2020年には私たちの東京で、年齢や障害の有無、国籍、文化などの違いに関わらず、社会の一員としてお互いに尊重しあい、支えあうそんな「共に生きる社会」の実現のためのオリンピック・パラリンピック大会が開催されます。子どもたちに夢と希望を、私たちに勇気と感動を呼び起こしてくれることでしょう。ただただ大会の成功を祈るばかりです。



素晴らしい人権メッセージを発表した子どもたち